

○

オレンジリボンたすきリレーへの思い・3

子どもの虹情報研修センター
増 沢 高

1. 今年もまた目の前が真っ暗に

11月8日、日曜日の朝の空はきれいに晴れていました。この日は第3回子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレーの日です。青空をながめながら、冷たい雨が降りしきる中で行われた今年のたすきリレーを思い出し、嬉しい気持ちになりました。同時に、こうして第3回のたすきリレーにたどりついたこと、ただそのことに、ホッと胸をなでおろしました。

3年目を迎えた実行委員会は、春先から昨年度以上の飛躍を胸に今回の計画を練っていました。昨年に引き続き、渋谷からの都心コースと小田原からの湘南コースを設定し、ゴールも横浜みなとみらい地区の日本丸メモリアルパークと決まりました。昨年はこの日本丸が工事中で使えず、グランモール公園にゴールを移さざるを得なかった経緯があったため、この会場使用の許可が下りた時は皆で喜びました。そして、コースやキャンペーン会場の充実に向けて様々な意見を交わしました。過去2回の実績ゆえに、それぞれの案に具体的なイメージを重ねることができました。まさに順風満帆の船出のように思えました。ところが4月に入り、昨年度共催として財政面での援助を受けたことも未来財団からの助成が得られないことを突然知らされました。

資金がない。目の前が真っ暗になりました。全てが振り出しに戻ったような錯覚に陥りました。急きょ財政面の協力を求めて様々な機関に訪問あるいは助成申請を行いました。焦りとわらをもすがら気持ちでした。嬉しかったのは訪問先のいずれも子ども虐待防止啓発の必要性を強く認識していただき、熱心に説明を聞いてくださったことです。改めて啓発ということの初心に戻った気がしました。そして、

独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」をはじめ、NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク、(財)SBI子ども希望財団、NPO法人エキスパート・チャリティ・アソシエーション、神奈川県厚生文化事業団、東京キワニスクラブ、横浜キワニスクラブといった多くの機関・団体が貴重な助成を約束してくれました。エキスパート・チャリティ・アソシエーションの社員やキワニスクラブのメンバーの方々は、ランナーとしてあるいはボランティアとしてこれまでも参加していただいていた。また、子どもの虹情報研修センターで行われる研修期間中に募金をお願いしたところ多くの方々が協力をしてくださいました。こうしてなんとか昨年度と同様の資金を確保することができたのです。すでに初夏の日が差す暑い季節となっていました。本当に救われた思いと感謝の気持ちで一杯になりました。

実は、目の前が暗くなった出来事はこれだけではありませんでした。11月8日をたすきリレーの日と決め会場確保も終えた後、湘南国際マラソン大会の開催が同日と決まったのです。このマラソン大会は、約2万人のランナーが参加する関東地方で屈指の規模を誇る大会です。問題となるのがそのコースで、大磯をスタートし江ノ島で折り返すというフルマラソンなのですが、我々の設定した湘南コースと重なってしまうのです。すぐにたすきリレーの日程変更を模索しましたが、他の行事の関係もあって無理でした。次にコースを別に設定する案を考えましたが、中継点の関係でうまくいかず途方に暮れることになりました。そんなときある実行委員が「湘南国際マラソンと同じコースを一部走らせてもらえないだろうか」と言ったのです。それが可能であれば2万人のランナーの目にも触れるし、もしランナー

にリボンをつけて走ってもらえたら大きな啓発となるだろうというのです。ただこのときは「そんなことは不可能だろう」と委員のほとんどが思いました。それでもとマラソン大会の事務局であるランナーウェルネスに連絡をとって見たところ、会ってお話を聞いていただけることになったのです。

ランナーウェルネスはマラソン大会などのスポーツイベントの企画運営をしている大きな会社で、24時間チャリティマラソンの企画もされているところです。数名の実行委員でうかがうことになったのですが、このときでも正直「まず無理だろう。話だけでも聞いていただけるだけでありがたい」という気持ちでした。ところが対応された職員の方は、実に熱心に我々の話を聞いてくださいました。そしてこのように話されたのです。「こうしたスポーツイベントは、単に競争が目的ではないんです。身体と心の両方の健康を目指して行われるもので、子ども虐待防止は心の健康に通ずる重要な意味があり、私たちの目的にも重なります」と。そしてたすきをつけて走ることはもちろんのこと、当日は子ども虐待防止のブースを設置し、ランナーにリボンを配布できるよう検討していただけることになったのです。その後これらの全てが実現されることになったのですが、私たちの主旨を理解してくださるとても貴重な人たちと出会えたことをとても嬉しく思いました。初めからあきらめるものではないことを教えられました。

2. 湘南コースと都心コースの充実

こうして湘南コースは湘南国際マラソンのスタートと共に第1区が始まることとなり、約14km先にある児童養護施設茅ヶ崎ファームからを第2区としました。第2区の終わりは遊行寺に決まりました。遊行寺は一遍上人の踊り念仏で有名な時宗の総本山です。遊行寺の住職の方も、中継点になることを快く了解してくださいました。都心コースの泉岳寺とともに、東西それぞれのコースで寺院が一つずつ中継所となったのです。遊行寺から始まる第3区の終わりは西横浜国際総合病院です。昨年从中継所とし

て協力していただいている唯一の病院です。4区から最終区への中継は、3年目にして初めて小学校のグラウンドが舞台となりました。横浜市の港南区にある永野小学校です。これまでも永野小学校の先生方はランナーとして参加されていましたが、今年の中継所として利用することを快諾してくださったのです。しかも当日はその地域の複数の町内が集まったの運動会ということで、うまく協働できるよう校長先生が町内会に声をかけてくださったのです。我々も永野連合町内会にお邪魔し、趣旨の説明と当日のご協力をお願いしたところ、「それならば」と運動会のプログラムの中に応援の企画を組んでいただけることになったのです。大変ありがたく思いました。同時に、このたすきリレーがようやく地域の方々に届いた実感を抱いた瞬間もありました。

都心コースも充実しました。これまでは渋谷の東京都児童会館から日比谷公園を経て泉岳寺に向かうコースでしたが、休日のこの辺は平日とうって変わって人がほとんどいないコースでもありました。そこで東京都児童会館をスタート後、実行委員会の事務局の1つである日本子ども家庭総合研究所（子ども総研）を第1中継所とし、次の中継所に東京タワーを候補と考えました。ここには多くの人たちが集まります。子ども総研の有村さんを中心に東京タワーにお話にあがったところ、ここでも快諾を得られたのです。しかも数時間にわたるキャンペーン活動も可能とのこと。「あの東京タワーが本当に決まったの?」と、運営委員の多くが耳を疑いましたが、まぎれもない本当のことです。感謝、感謝です。東京タワーの後はおなじみの泉岳寺です。一つの行事も3回目になると、ある種の象徴的な場所、物、営みができてくるものです。その一つが泉岳寺で、もはやたすきリレーにはなくてはならない中継所となりました。泉岳寺から始まる4区の終わりとして品川児童相談所が決まりました。東京都はたすきリレーの1回目から後援となっていたいただきましたが、今回は品川児童相談所を中継所にしていただいたのです。しかも地域の要保護児童対策地域協議会のメンバーの方々や民生委員の方々も応援してくださることになったのです。

3. 5,000個の手作りオレンジリボン

このようにコースも充実し、キャンペーン会場も、日本丸メモリアルパークに湘南国際マラソン大会会場と東京タワーが加わりました。それはとても嬉しいことなのですが、そこで問題になったのが配布するリボンの数です。これまではおおよそ1,000個のリボンを作り配布していました。しかし今回、2万人のランナーが走るマラソン大会ではどれだけ配布できるのか、東京タワーはどうなのか、全く見当が付きませんでした。「走る目的のランナーがそんなに受け取ってくれないだろう。500個作れば充分では」から「いや2,000個は必要だ。みなつけて走ってくれる」と意見は様々でした。結局「数が多くて困ることはない」と多めの予想でマラソン大会会場に2,000個、日本丸メモリアルパークで2,000個、東京タワーに1,000個と見積もりました。合計5,000個です。

さて、見積もりはできても、作るのは大変です。10数名の実行委員だけでは到底作り上げることはできません。そこでリボンの作成についても協力をお願いすることとしました。様々な方々にお声をかけたところ、民生・児童委員や主婦の方、大学・専門学校で学生さんたちなど、実に多くの方々協力していただき、10月中旬までには目標の5,000個に到達したのです。何事にもこつこつとした歩みが必要なこと、こうした草の根の取り組みこそが啓発活動に命を注ぐことであることを、実感しました。作られた方々の思いのこもったリボンです。心こめて配布したいと心底思いました。

4. 大磯ロングビーチからゴールを目指す

当日の朝、湘南国際マラソンのスタート地点である大磯ロングビーチには、7時前にはすでに多くのランナーが詰めかけていました。最寄りの大磯駅と二宮駅からは、ロングビーチに向かう一般ランナーが列となって移動しています。たすきリレーキャンペーンブースは、ロングビーチに入ってすぐの、皆の目に留まるとも良い場所に設置していただきま

した。「ランナーはリボンをつけてくれるだろうか」「2,000個のリボンは配布できるだろうか」これが我々の不安でしたが、始まってみるとランナーが次々と受け取ってくれるのです。「子ども虐待防止」ののぼりを見て、わざわざリボンをとりに来てくれるランナーもおられました。9時のスタートを待たず、ほとんどのリボンがランナーの手に渡りました。「もっと作ってくれば良かった」というのが終わってみての感想です。

9時に一般ランナーとともに8名のたすきを着けたランナーがスタートしました。その周りにはリボンをつけてくださったランナーもたくさん走っています。14km先の中継点では、第2区のランナー役員が「子ども虐待防止」と書かれたオレンジ色ののぼりをもって待ち受けます。リボンをつけた一般ランナーがのぼりを見て「リボンつけてるよー」などと声をかけてくれます。リボンを配布した喜びをかみしめました。

第2区の起点である茅ヶ崎ファームでは、たすきリレーのスタートセレモニーを行いました。そこにマラソンコースからのたすきが運ばれてきました。第1区を走ったランナーは、別のたすきをつけてフルマラソンをそのまま走り続けました。その中には、第1回のたすきリレーで全区を駆け抜けた山下さんや2回目に都心コース全区を走った井上さん、そして、厚生労働省元虐待防止対策室室長の伊原さんの姿もあります。茅ヶ崎ファームでは神奈川県子ども家庭福祉課の芝山課長の挨拶の後、運ばれたたすきをランナーが身につけ、来賓の方や茅ヶ崎ファームの子どもたちの前に整列しました。子どもたちによる元気な応援パフォーマンスを受け、小谷内ランナー代表の掛け声とともに10数名のランナーたちは横浜に向けて走り出しました。この日は七五三の参拝に訪れた家族の方々をたくさん見かけました。第2中継所である遊行寺に向かう途中、こうした方々からも大きな応援を受けました。その声は藤沢から戸塚に続く急坂を上るランナーたちの大きな励みになりました。遊行寺で3区のランナーにたすきが渡りました。秋の日差しが走り終えたランナーの額の汗を輝かせています。境内の前で全員に完走賞が手

渡されました。第3区を担うランナーたちは横浜に入り、国道1号線を進んで戸塚区の西横浜国際総合病院に到着しました。病院では看護師さんたちが迎えてくださり、バナナやケーキでランナーをもてなしてくださいました。病院でたすきを受けた第3区のランナーは、元気に戸塚駅を超え地下鉄沿いに下永谷に向かいます。最後の中継所である永野小学校では200名を超える地域の方々の運動会が盛大に行われています。会場では「後10分でたすきリレーのランナーが到着いたします」と放送され、運動会のプログラムが一旦中断されました。町内会長さんの音頭で最終ランナーの紹介やランナーを迎え入れる練習も始まりました。練習も終り皆がグラウンドの入口を見つめる中、ついに10数名のランナーがグラウンドに入りました。大きな声援です。グラウンドを一周したランナーたちは朝礼台の前で次のランナーにたすきをつなぎました。拍手喝采です。中継所でこれだけ多くの人たちに声援をいただいたのはたすきリレー始まって以来のことです。地域の方々と一つになれた喜びと地域の方々の底力を感じました。最終ランナーは永野小学校を後にしてゴールを目指しました。

5. 渋谷の東京都児童福祉会館からゴールを目指す

都心コースでは昨年同様、スタートセレモニーが東京都児童会館で行われ、第1区のランナーがスタートしました。その中には、昨年の平山実行委員長の姿もあります。ランナーたちは麻布の日本子ども家庭総合研究所（子ども総研）を目指します。子ども総研はたすきリレーの事務局を担う機関の一つで、子どもの福祉や医療に関する数多くの研究を行っている機関です。このタスキリレーでは小山研究企画・情報部長をはじめとして、都心コースにおける企画や運営の中心を担っていただきました。また今年からたすきリレーのホームページが公開されましたが、それは有村さんを中心に子ども総研の職員の方々の技術の賜物です。子ども総研からの第2区のランナーは東京タワーを目指します。東京タワーでは、入口に飾られた大きなクリスマスツリー

の前にステージが置かれ、インディーズの方々によるライブ演奏が行われています。観光バスから降りる多くの観光客の皆さんに、オレンジリボンやチラシが配布されました。ランナーが到着し、次のランナーにたすきが渡りました。ランナーの中には海外から参加された方もおられます。観光客の方々の大きな声援を受け、次の中継所、泉岳寺に向かいます。泉岳寺は東京コースの他の中継所と違って静寂な雰囲気醸し出し、訪れるものを凜とさせます。ランナーも心なしか背筋がのびて、たすきをつないだ気がします。ランナーは次の中継所となる品川児童相談所に向かいます。少し道に迷うトラブルもありましたが、すぐに正規のルートに戻ることができました。品川児童相談所が近づく、驚いたことに消防署の職員の方が交通整理をしてくださっています。安全に走行できるよう配慮してくださったのです。品川児童相談所では、たくさんの地域の方が集まっておられました。職員の方はオレンジのジャンパーを身に着け、リボンやチラシ、そしてリボンが印刷された風船を地域の方々に配っておられます。秋風に子ども虐待防止ののぼりが揺れています。ここで中継されたたすきとランナーたちは、次の川崎市役所へ向かいます。この第5区は都心コースの中で最長の約14kmを走行します。ランナーは多摩川を渡り、川崎市役所に到着しました。ここからはじまる第6区のランナーは、当初川崎駅前を徒歩にて進み、虐待防止を訴える予定でしたが、タイムスケジュールが大幅に遅れていたことで中止とし、急ぎ次の鶴見の中継所であるナイス株式会社に向かうこととなりました。遅れを取り戻そうとランナーのペースが徐々に速くなっていきます。そしていよいよ最終区のランナーにたすきがつながれました。そこにはボクサーの坂本さんの姿もあります。10数名のランナーは、8km先のゴールに向かって走り続けます。

6. 日本丸メモリアルパークのキャンペーンと感動のゴール

メモリアルパークでは、10時からキャンペーンのイベントが始まりました。今年も司会の築地さんと

アシスタントの永井さんがイベントを進行します。ステージでは、ヒップホップダンスチームのBoozerと、ドラムのユニットパフォーマンスが始まりました。軽快な音とリズムに道行く人が引き寄せられます。続いてシンガーソングライター土田聡子さんの歌声がしっとりと会場に流れます。会場内では多くの機関がブースを設置してキャンペーンを盛り上げました。横浜市のブースでは子どものお絵かきコーナーの他、アニメのキャラクターが登場して盛り上げています。関東学院大学の学生たちによる子どもの遊び場コーナーもあります。NPO法人カンガルーOYAMAは、今年もオレンジリボンオブジェ制作を企画し、イベントの後半にはたくさんのオレンジリボンでできたオブジェが完成しました。NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク事務局は、公募によるデザインのチラシなどを配布しました。神奈川県はオレンジリボンがデザインされたエコバック等を配布しました。川崎市あゆみの会は養育里親の啓発を行い、母子生活支援施設協議会は、母子生活支援施設をアピールしました。ブース設置数は今までで一番多く、子ども虐待防止に関係した様々なキャンペーンが会場を盛り上げていました。

昼のステージでは、プロボクシング元東洋チャンピオンの坂本博之さん、シンガーソングライターの成田圭さん、そして大竹佑季さんによる子ども虐待防止についてパネルディスカッションが行われました。進行は子どもの虹情報研修センターの川崎研究部長が務めました。坂本さんは児童養護施設出身者であり、成田さんは児童養護施設の保育士さんでした。坂本さんの子どもたちの幸せへの熱い思いが印象的でした。パネルディスカッションの後、坂本さんは都心コースの最終中継所であるナイス株式会社に向かいました。最後の第7区を走るためです。

会場のエリア周辺では、12名の大道芸の方々がパントマイムや風船オブジェを作って道行く方々の視線を集めました。彼らは「くりちゃんと愉快的仲間たち」のメンバーで、毎年このイベントに駆けつけてくれます。また築地さんと永井さんが、ランナーたちの動向を伝えてくれます。昼過ぎには湘南コースのランナーたちは永野小学校近くに、都心コース

のランナーたちは品川児童相談所に迫っていることが伝えられました。またときどきモニター映像を通してランナーたちの様子が映し出されました。

午後は大竹佑季さんのライブです。ギター演奏とのセッションがとても素敵です。そして成田圭さんのライブです。成田さんの働いていた児童養護施設は神奈川県にあります。成田さんと関わった子どもたちは成田さんの夢を負い続ける姿を目の当たりにし、きっと勇気づけられたに違いありません。ブラインドバードは本当に素晴らしい曲でした。

午後2時を過ぎ、日本丸もいよいよランナーを待つばかりです。2時半を過ぎ、まずは湘南コースのランナーの姿が見えました。大きな歓声の中ランナーたちが走ってきます。そして15名程のランナーが皆一斉にゴールしました。今回のゴールテープはNPO法人虹のリボン事務局による手作りで、全長20メートルのまん中に「子どもに明るい未来を」のロゴが入っています。昨年以上に迫力のあるフィニッシュとなりました。都心コースは予定より遅れているようでした。前回よりも2区多い全7区としたために、中継に時間がかかってしまったようでした。その都心コースのランナーたちも3時半にはゴールを果たしました。坂本選手の姿もあります。感動のフィナーレです。大会長より完走賞が贈られました。そこにフルマラソンを走り終えたランナーも、何人か会場に到着しました。さすがに疲れた表情ですが、足取りは元気そうで驚きました。ステージに上がりねぎらいの拍手を受けました。

たすきをつないだ全てのランナーと実行委員も次々にステージに上がり、皆で万歳三唱。そして3人のシンガーソングライターとともに、皆で「翼をください」を合唱しました。会場の方々も一緒に歌いました。最後に司会者からこのたすきを次につなげていく合言葉、「来年も会いましょう」の掛け声で幕を閉じました。

7. たすきリレーを終えて

子ども虐待の対応には、多くの職種や機関の協働が必要となります。しかし協働は言うが易く、実現

には困難が伴うことも事実です。子どもの幸せに中心軸を置くべき連携が、職種や組織の考え方や価値観に引きずられ、軸がぶれてしまうことが少なくありません。一つの目的を達成するためには、個々の分野の立場や事情はいったん横に置いて、可能な限りできることを模索するという姿勢がそれぞれに求められているような気がします。啓発活動としてこのたすきリレーを実施する意味はここにあります。児童福祉施設を中心に始まったこのたすきリレーは、児童相談所、学校、企業、学生や一般の方々へとその輪は広がってきています。湘南国際マラソン大会、永野小学校、東京タワー、品川児童相談所、そして日本丸メモリアルパークなど、随所でその広がりを実感しました。また子ども虐待防止と子どもの明るい未来を創造することに多くの賛同者がおられることも実感しました。そして、それぞれの立場は違えど、大切にすべき大きな目的のためには、縦

割りや縄張り意識などの垣根を越えて皆が一つになりえることを学びました。子ども虐待防止における多分野協働は、子ども虐待対応の歴史の長いアメリカやイギリスでも難しい課題とされています。しかし、こうしたたすきリレーにこれだけの人たちが立場を超えて集まれる日本は、この課題克服に大きな可能性を秘めた国なのかもしれないと思うのです。オレンジのたすきがランナーからランナーへと引き継がれていく光景を目の当たりにするたびに、そのような思いが湧いてきました。

そして今年も岐阜県と山口県でオレンジリボンたすきリレーが実施されました。2回目となる岐阜県では3コースを設定し300名のランナーが走行したそうです。私たちは、こうやって少しずつたすきの輪が広がっていくことが嬉しく、またそれぞれが励ましあってたすきを来年へとつなぎ、より大きな輪ができることを願っているのです。

謝辞

まず、たすきを身につけて走っていただいたランナーの皆さまとキャンペーン会場で歌やトークをしていただきました皆様に感謝申し上げます。

次の方々には財政面での支援をしていただきました。独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」、NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク、(財)SBI子ども希望財団、NPO法人エキスパート・チャリティ・アソシエーション。また次の方々には飲料水や風船などを提供していただきました。サッポロ飲料(株)、カードショップカリントウ。心より感謝申し上げます。また、子どもの虹情報研修センターで行われる研修期間中に募金をお願いしたところ多くの方々協力をしてくださいました。ありがとうございました。

次にあげさせていただく後援の機関、団体の方々からは、大きなご支援をいただきました。

厚生労働省、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、横須賀市、神奈川県社会福祉協議会、全国児童相談所長会、神奈川県児童福祉施設協議会、神奈川県母子生活支援施設協議会、東京都社会福祉協議会、横浜市ファミリーグループホーム連絡協議会、川崎市あゆみの会、(財)神奈川新聞厚生文化事業団、アン基金プロジェクト、東京キワニスクラブ、横浜キワニスクラブ。大変ありがとうございました。

スタートや中継所等の設定にご協力をいただいた東京都児童会館、ランナーズウェルネス、茅ヶ崎ファーム、東京タワー、泉岳寺、遊行寺、日本子ども家庭総合研究所、西横浜国際総合病院、永野小学校、品川児童相談所、川崎市役所、ナイス株式会社。心から感謝申し上げます。キャンペーン会場でブースを設置していただくなど会場を盛り上げていただきました神奈川県、横浜市、NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク、カンガルーOYAMA、川崎市あゆみの会、関東学院大学、栗原さんをはじめとするパントマイマーの皆様。またご寄付をいただいた方々、ランナーの並走車に乗って緊急時に備えていただいた西横浜総合病院看護師の鶴屋さんと根井さん、その他このイベントにご支援ご協力をいただいた方々に深く感謝いたします。

さらに次にあげさせていただく方々には、キャンペーン会場でリボンやチラシを配るなどのボランティア活動をしていただきました。東京キワニスクラブ、横浜キワニスクラブ、永谷連合町内会、戸塚区民生・児童委員、品川区民生・児童委員、目黒区子ども家庭支援センター、関東学院大学、明治学院大学、明治大学、早稲田大学大学院、横浜市立大学、日本大学の皆さま。心から感謝申し上げます。

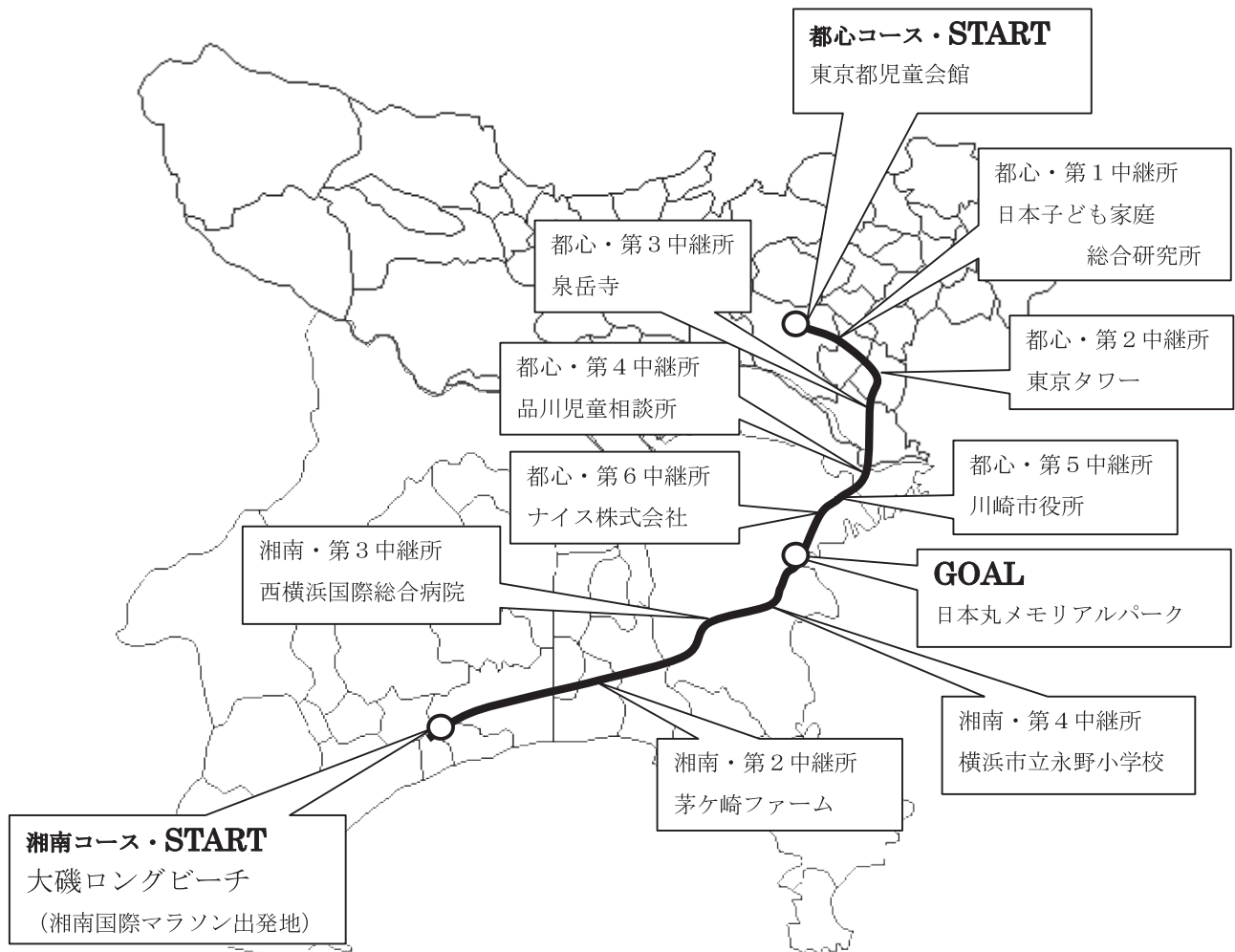
多くの関係者の力により実行委員会が実りあるものとなりました。児童虐待防止全国ネットワークの相良さん、日本子ども家庭総合研究所の小山部長と有村さん、東京都社会福祉協議会児童部会従事者会会長の榊原さん、神奈川県児童福祉施設協議会の草場さん、神奈川県母子生活支援施設協議会の森脇さん、横浜市ファミリーグループホームの斉藤さん、川崎あゆみの会の霜倉さん、幸保愛児園の宇田川さん、鎌倉児童ホームの村岡さん、虹のリボン事務局の佐々木さん、皆さまは実行委員の中核として一緒に動いていただきました。また東京都、神奈川県、横浜市、川崎市には、実行委員会に参加していただくなど、様々なご助言やご協力をいただきました。ありがとうございました。

お詫び

コース上で応援に駆けつけてくださった方が多数おられました。ランナーが予定時間よりも先に通過し、わざわざ来られたにもかかわらず、ランナーを応援することができない方がおられました。この誌面を借りてお詫び申し上げます。来年度からは予定通過タイムを厳守しての走行に努めます。

※ 次ページからは、全コース図、ランナー数や職種、各区のランナー数と通過時間をまとめたものを掲載いたします。

1. 2009 オレンジリボンたすきリレー 全コース図



2. ランナーの職種と人数

職種	ランナー数	職種	ランナー数
児童福祉施設	31	行政	3
児童相談所	25	医療	4
グループホーム・里親	4	サービス	2
福祉一般	3	小売	4
教育	13	運輸	1
学生	22	その他	14
		合計	126

※()内は各区の途中から参加されたランナー数も含む人数

3. 走行タイムと各区のランナー数


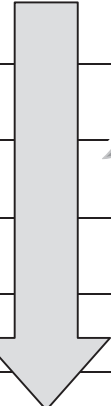
都心コース			
区	ルート	時 間	ランナー数
スタート 第1区	東京都児童会館 ～日本子ども家庭総合研究所（4 k m）	9 : 30	7名
麻布中継点 第2区	日本子ども家庭総合研究所 ～東京タワー（3 k m）	10 : 10	9名
東京タワー中継点 第3区	東京タワー ～泉岳寺（4 k m）	10 : 30	10名
品川第1中継点 第4区	泉岳寺 ～品川児童相談所（2.5 k m）	11 : 00	15名
品川第2中継点 第5区	品川児童相談所 ～川崎市役所（11 k m）	11 : 30	10名
川崎中継点 第6区	川崎市役所 ～ナイス株式会社（6.5 k m）	13 : 50	7名
鶴見中継点 第7区	ナイス株式会社 ～日本丸メモリアルパーク（9 k m）	14 : 40	13名
ゴール	日本丸メモリアルパーク	15 : 30	（計 71名）

湘南コース			
区	ルート	時 間	ランナー数
スタート 第1区	大磯ロングビーチ（湘南国際マラソンスタート） ～浜須賀（14 k m）	9 : 00	9名
茅ヶ崎中継点 第2区	茅ヶ崎ファーム ～遊行寺（6 k m）	10 : 40	11名
藤沢中継点 第3区	遊行寺 ～西横浜国際総合病院（5 k m）	11 : 30	11名
戸塚中継点 第4区	西横浜国際総合病院 ～横浜市立永野小学校（7.5 k m）	12 : 10	11名
上永谷中継点 第5区	横浜市立永野小学校 ～日本丸メモリアルパーク（11 k m）	13 : 10	13名
ゴール	日本丸メモリアルパーク	14 : 30	（計 55名）
総ランナー数			合計 126名

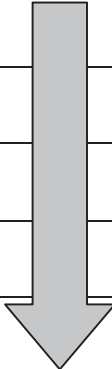
※複数区を走行したランナーはそれぞれ1名としてカウントしました。

4. キャンペーン会場

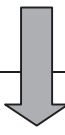
(1) 日本丸メモリアルパーク

時間	内 容 MC：築地 聡、永井美佐江		
10：00	オープニング！	大 道 芸	チラシ &リボン配布
11：00	Hip-Hop ダンスチーム「Boozer」		
11：30	土田聡子さん ライブ☆		
12：00	パネルディスカッション		
12：30	大竹佑季さん ライブ♪		
13：30	成田 圭さん ライブ★		
14：30	ゴールセレモニー！！！！		

(2) 東京タワー

時間	内 容 MC：ぴんぼんず川本	
10：00	オープニング！ ♪ TIME CAFE ～時の喫茶～	チラシ&リボン配布
10：30	ランナー到着（予定） たすき引継ぎ	
10：45	♪ MAI	
11：25	♪ あるがまふいあ	
12：05	♪ 小林美季	
12：45	♪ Kan HAAEM	

(3) 湘南国際マラソン スタート地点

時間	内 容	
7：00	オレンジリボン（2,000個）配布	リボン配布
9：00	湘南国際マラソン フルマラソン出発	
10：15	ランナー 浜須賀の交差点にて たすき引継ぎ	

5. リボンを作成していただいたボランティアの方々

リボン作成者	個数
中央大学 加藤ゼミのみなさん	150
戸塚区民生・児童委員のYさん	950
日本子ども家庭総合研究所	1,000
東京国際福祉専門学校	1,000
横浜キワニスクラブ	500
ノートルダム女子大学Tさん他	500
東京家政大学 Oさん	550
戸塚区 Nさん、Iさん	1,000
当日作成	50
明治大学のみなさん (チラシにリボンをつける作業)	(500)
計	5,700

子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー・名場面の数々



湘南国際マラソンでリボンを配布（湘南コース）



リボンをつけてスタートを待つ一般ランナー



マラソン大会と共にスタートしたたすきランナー（湘南・第1区）



遊行寺までの急坂を駆け上がるランナーたち（湘南・2区）



都心コースのスタートを切ったランナーたち



東京タワーのマスコット・ノッポンとランナー（都心コース）



六郷橋を渡るランナーたち（最長区間の都心5区）



地域の運動会が中継点に（湘南・第4中継所・永野小学校）



品川児童相談所（第4中継所）
で配布した風船



横浜市のブース・子どもたちの楽しい遊び場
ゴールのメイン会場・日本丸メモリアルパーク



ゴール会場でランナーを待つ
とら吉くとモンちゃん



恒例のカンガルーOYAMA・オレンジリボンオブジェ



ステージを盛り上げていただいた、左から大竹さん、
成田さん、築地さん、永井さん、土田さん



チラシとリボンを配布、にぎわう会場内



オレンジの風船オブジェが手渡され、にっこり



感動のゴール

みんなで「翼をください」を大合唱

